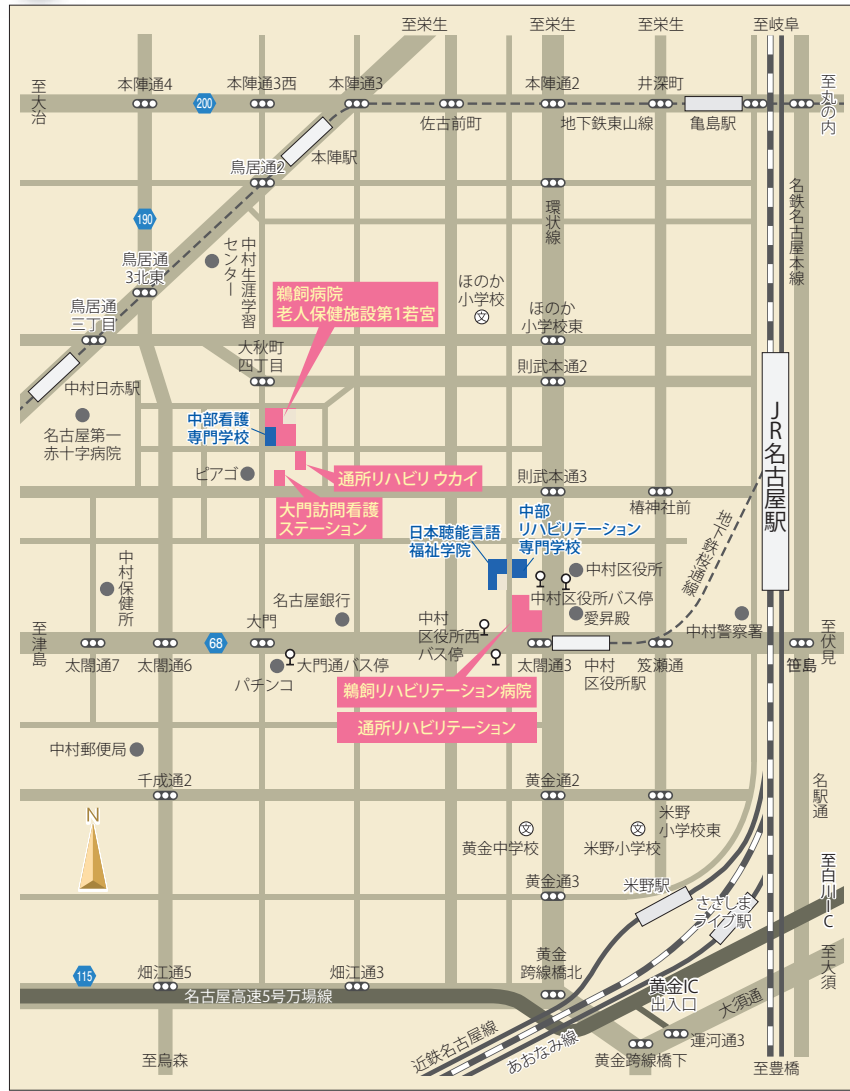


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より..... 徒歩約 1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車..... 徒歩約 1分
- JR名古屋駅太閤通口より..... 車で約 5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ..... 車で約 5分



当院は、
医療機能評価
認定病院です。

URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

老人保健施設 第1若宮
TEL 052-461-3175
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町6-1

大門訪問看護ステーション
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区大門町30

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院
ハートフル情報誌
ReHappy!
Vol.66

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー

Vol.66

発行人/鵜飼泰光
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行/平成31年1月1日

〈特集〉

しっかり食べられるように
あらゆる手段を尽くす。



URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

しっかり食べられるように あらゆる手段を尽くす。

患者さんが運動療法などのトレーニングに取り組むことができるのも、毎日三食、しっかり栄養をとっているから。今号のReHappy!は、食と健康を支える管理栄養士にスポットを当て、入職7年目の伏見奈央にインタビュー。患者さんがしっかり食べられるようにどんな努力を続けているのか話を聞いた。



管理栄養士 伏見奈央

リハビリできる体力をつけるための栄養補給。

「〇〇さん、今日の煮魚、おいしいですか」「あれ、〇〇さん、だいぶ残してますね、量が多かったですか」。そんな言葉をかけながら、食堂で入院患者さんに接する



のは、管理栄養士の伏見奈央である。伏見は、食事時はたいてい食堂に姿を現し、患者さんの食事風景をつぶさに観察する。「今は、1人で1病棟を担当しているので、より多くの患者さんの食事に目が行き届きます。患者さんとの会話も増え、一人ひとりの課題がよくわかるようになりました」と笑みをこぼす。同院では、平成30年度か

ら管理栄養士を増員し、各病棟に1名ずつ配置する体制になった。伏見は3階を担当している。

伏見は食事を見るとき、どんなところに注意しているのだろう。「とくに注視するのは、患者さんが何を食べて、何を残しているかということです。小鉢のおかずを残すのはまだいいのですが、メインの肉・魚料理を残していると危険信号です。そのままでは栄養不足になるので、嗜好に合うように食事内容を変更したり、量を調節したり、補助食品をプラスするなど、個々に適した対策を考えます」。

食事の内容を見ながら、伏見は、患者さんの体重変化にも思考を巡らせる。「<ちゃんと食べているのに、体重が減ってきた、足が細くなってきた>ということがまれにあります。それはなぜかという、患者さんはみんな、毎日トレーニングしているのです、おうちにいた頃より運動量が多く、エネルギー不足になるんですね。そういう変化にいち早く気づき、



食事のエネルギー量を見直すのも大切な仕事です」。さらに、伏見は血液データのチェックも欠かさない。「血液検査では数値をよく確認し、タンパク質が十分にとれているか、脱水になっていないか、腎機能は問題ないか、血糖コントロールは順調か、などを確認しています」。患者さんが元気にリハビリテーションに励めるように、一人ひとりの栄養を管理することが、伏見の使命なのである。

一人ひとりの好みに合わせた オーダーメイドの工夫。

栄養とともに、伏見が重視するのは、おいしく食べてもらうことだ。伏見は、患者さんが入院してくると、その日のうちに必ずベッドサイドに出向き、患者さんとご家族に話を聞く。「好き嫌いや、一度に食べられる量、おうちでの食事のスタイルなどを細かくお聞きします。そこで嫌いな食材をお聞きしたら、できる限りメニューから外します。嫌いなものが出ないだけで、食が進む方もいらっしゃいますから。当院の厨房はそこまで、一人ひとりオーダーメイドで対応しています」と、伏見は胸を張る。

また、メイン料理の味付けにもこだわる。「高血圧や腎臓病の方などは、減塩食になりますが、それでも、当

院はメインの肉・魚料理の味付けを薄めません。塩分の多い料理の量を調節したり、小鉢などの塩分量を減らすことで調整し、おいしく召し上がっていただけるように工夫しています」。

さらに、料理の硬さも味わいを左右する重要なポイントだ。同院では、高齢患者さんの噛む力（咀嚼機能）や飲み込む力（嚥下機能）に合わせて、きざみ食、ソフト食、ミキサー食などを細かく用意している。「どろどろのミキサー食だと食べる気がしないけれど、少し形のあるソフト食ならおいしく食べられる、という方もいらっしゃいます。できる



だけおいしく食べていただけるような食の形態も、言語聴覚士と相談して決めています」。

伏見が情報収集した患者さんの食の好みや食事形態は、逐一厨房のスタッフに伝えられ、毎日の献立に反映されていく。かゆいところに手が届くような対応が功を奏し、同院が毎年行っている患者満足度調査でも、食事内容の満足度は年々上昇。平成29年度の調査では、非常に満足・ほぼ満足を合わせて80%以上に達している。

管理栄養士は、食事の質を守る プロフェッショナル。

「管理栄養士の仕事は、隙間産業とも表現される」と、伏見は言う。「食事は日常生活の一部ですが、それだけを見る職種は他にありません。だからこそ、他の看護師、セラピストが見過ごしてしまうところまでしっかり気づかねばならないと思います」と伏見。

そんな管理栄養士を、他の職種はどのように評価しているだろうか。看護師の佐藤 梓は次のように話す。「とにかく食事の場面にしっかり介入して、細かく患者さんの意見を吸い上げてくれます。管理栄養士がいなかったら、当院の食事の質は明らかに低下すると思います。患者さんのなかには、入院生活で食事が唯一の楽しみという方もいらっしゃいますから、管理栄養士の存在は貴重です」。



For the Best Rehabilitation

Topic 1

患者さんの栄養改善について、NST(栄養サポートチーム)で検討。

鵜飼リハビリテーション病院ではNST(栄養サポートチーム)を結成し、月に2回カンファレンスを実施している。NSTとは「Nutrition Support Team」の略で、栄養状態の悪い患者さんを多職種で総合的に支えるチーム医療である。

NSTのメンバーは医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士。まず入院患者さんのなかから、低栄養の症例や食事摂取不良の症例をピックアップ。各専門職がそれぞれの視点で検討し、さまざまな側面から意見を出し合う。たとえば、食事がとれていない場合、その人はなぜ食べられないのか、おうちの食生活や食習慣との違いに問題があるのか、好き嫌いの問題か、嚥下機能の問題か、食の形態の問題か、疾患や薬の影響か…などを掘り下げてじっくり議論し、問題解決の道筋を探っていく。



ここで話し合われる症例は、多いときで各病棟に10人以上、すなわち全入院患者の2割に達することもある。また、NSTで決まった改善策については、それぞれの病棟の医師、看護師、セラピストにフィードバックされ、すぐに実践される体制になっている。

Topic 2

2回の栄養指導で、退院後の食生活へ繋げる。

鵜飼リハビリテーション病院の管理栄養士が平成30年度からとくに力を注いでいる取り組みに、入院患者さんとご家族への栄養指導がある。栄養指導はこれまでも行っていたが、以前はご家族や看護師の依頼を受けて、退院直前に1回行うスタイルだった。しかし、今は管理栄養士が増え、マンパワーの余裕が生まれたことから、入院中に2回の栄養指導を行っている。

栄養指導の対象者は、高血圧や糖尿病などにより食事制限を必要としている患者さんが中心。入院間もない頃



に行う1回目の栄養指導では、「まずは正しい食事を覚えましょう」と話しかける。入院中は1日3回、その人に適した味

つけや量の食事が提供される。それを、舌と体で覚えてもらうのが目的だ。また、「ご飯よりも先に野菜を食べる」など、より良い食べ方についても伝授している。

退院直前に行われる2回目の栄養指導では、在宅でも続けられる食事の工夫についてアドバイスしている。たとえば、減塩食の人には、塩の代わりにレモンや酢を使う方法、スーパーでの総菜の選び方など、ライフスタイルに応じた取り組み方を提案している。但し、患者さんによっては片麻痺が残り、自炊ができないなど、さまざまな問題を抱えているケースもある。そういう場合、どんな食事なら続けられるかをご家族と一緒に考え、退院後もできる限り健康な食生活が続けられるようサポートしている。



言語聴覚士小林瑞穂は、摂食嚥下障害のある患者さんの食事について常に意見交換しているという。「摂食量が少なくなると、どうすれば食べていただけるかよく相談しています。管理栄養士は患者さんの好みもよくわかっていて、『少し甘くしようか、食べやすいゼリーにしようか』など、的確な提案をしてくれますね」。さらに、管理栄養士から新メニューの提案を受けることもあるという。「たとえば、新作の羊羹やゼリーを作ってくれて、私たちが試食することもあります。この形態なら、嚥下障害の軽い方なら大丈夫、といった判断をしながら一緒に新メニューを決めています(小林)。



小林言語聴覚士

で、すぐに相談できるようになりました。患者さんの食事を一緒に見ながらカンファレンスのように検討し合う場面も増え、栄養管理のレベルも向上していると思います」と、佐藤は話す。



佐藤看護師

さらに、二人が共通して言うのは、管理栄養士が病棟配置体制になり、連携がより密になったことだ。「以前は、院内で管理栄養士を探して声をかける感じでしたが、今はほとんど病棟にいてくれるの

ていくか>といった部分でも気軽に相談してもらい、役に立っていきたくて考えています」と話す。

また、患者さんの退院後を見据え、患者教育にも力を入れていく方針だ。「当院での入院は、短い場合でも1カ月くらいあります。この入院期間は、正しい食習慣を身につける絶好のチャンスでもあるんです」。伏見がめざすのは、糖尿病の教育入院(糖尿病をコントロールするための食事や運動療法を学ぶ入院)に近いイメージかもしれない。「そうですね。患者さんには『食べることは勉強でもあるんですよ』とお話して学んでいただいています。この機会に自分の健康に必要な食材の種類、食事の量、味付けを学んで、退院後の生活に活かしてほしいですね」と話す。しかし、高齢の患者さんが長年ずっと続けてきた食べ物を変えることは、容易ではないだろう。「食事



はとてもプライベートな領域なので、他人から言われたくないこともあります。ストレスを与え過ぎて食事が嫌になっては困るので、私はいつも患者さんに<嫌われないように>お話しすることを心がけています」。そして、伏見はこう結ぶ。「患者さんという人間関係を築きながら、毎日、おいしく、気持ちよく食べてもらえるように、これからも精一杯サポートしていきます」。

退院後も正しい食生活を続けられるようにアドバイス。

栄養とおいしさを大切に、患者さんの入院食を支える伏見。今後の目標は何だろうか。「医療チームの一員として、もっと多職種と有機的に連携していきたいですね。今は、看護師、言語聴覚士からの相談が中心ですが、これからは理学療法士、作業療法士からも相談してもらえる存在になりたいと思います。たとえば、理学療法士からもう少し運動量を上げていくので、献立をどう変え

珪山会
グループからの
お知らせ

Support Party!

鵜飼病院

地域に密着した病院として、 患者さんやご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせて、 専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っでの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせて、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと 同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方

ご利用日：月～金曜日

（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30

午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック）など

※食事・入浴・送迎はありません。

老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が 職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑顔が、職員の励みになっています。

これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方
ご利用日：月～土曜日

（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

○理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション

○日常生活の援助

（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）

○在宅生活における各種相談

大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。 退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00

（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

○健康状態・病状観察

○日常生活の支援

○医療処置・カテーテル管理支援

○在宅リハビリテーション

○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。